

6 石狩の文化財

●国指定文化財

(1) 重要文化財

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
太刀 銘国俊	札幌市	個人	S8.1.23	鎗造、庵棟、笠木心に浅い反り、鍔は板目、地拂付き「チケイ」入り、刃は焼巾広く小乱れ、匂深く沸付き、上半は匂勝ちなも横手の上下は沸強く、帽子は火焰心で、棟焼あり。莖は区を少し摺り上げ、切の鎌目付。二字国俊の穏秀な作である。
八窓庵(旧舎那院忘室)	札幌市中央区南11条西4丁目 中島公園内	札幌市	S25.8.29	江戸時代初期。大名茶人で総合芸術家と言われた小堀遠州が作ったと言われる茶室。その名のとおり8つの窓がある。
刀 無銘伝来国行	札幌市	個人	S31.6.28	無銘であるが、その作風と優れた技量からみて、鎌倉中期の刀鍛冶来派の始祖である国行の作と伝えられている。
豊平館	札幌市中央区南11条西4丁目 中島公園内	札幌市	S39.5.26	設計を開拓使工業局宮籍課が担当し、明治12年(1879)に起工、翌13年(1880)竣工した。昭和32年中島公園内に移築し、周囲の環境も整備されて保存活用されている。建物は、木造総二階建て、翼屋の両端を前後にわずかに突出され正背面に切妻をみせる。内部は一、二階とも中央部にホールをとり、その西側を広間や食堂とし、東側は中廊下をはさんで客室とする。豊平館は、開拓使の手になる本格的洋風建築の遺構であり、北海道における明治時代洋風建築の代表作である。
北海道庁旧本庁舎	札幌市中央区北3条西5丁目1	北海道	S44.3.12	明治21年(1888)竣工の煉瓦造地上二階地下一階建の官庁建築。屋根はスレート葺。中央部に八角塔屋を設ける。外装は、要所に石材を混用した煉瓦積。壁面は柱間に二重アーチを造出し二重窓を設ける。内部は明治44年改修時の形式で、屋根及びドーム等は当初形式に復元。平井晴二郎の設計による我が国における大規模な煉瓦造建造物の初期遺構。
北海道大学農学部(旧東北帝国大学農科大学)第二農場	札幌市北区北18条西7丁目 北海道大学構内	国立大学法人 北海道大学	S44.8.19	明治42年から45年にかけて現在地につくられたもので、北海道酪農の模範農場として、指導者の養成・農業技術の向上に寄与した面は、酪農発達史上重要な位置を占める。第二農場を構成する木造、石造、煉瓦造の諸建築は、明治末期の建築として評価されるだけでなく、そのたたずまいは景観的にも著名である。これら農場建築のうち、産室・追込所及び耕馬舎、種牛舎や穀物庫は、明治10年建設の札幌農学校模範家畜房(モデルバーン)および玉蜀黍庫(コンバーン)を移築したもので、改造されたがクラークの計画によって米人教師が設計した当初のおもかげをなお残しており、札幌農学校の由緒を伝えるものとして貴重なものである。
旧札幌農学校演武場(時計台)	札幌市中央区北1条西2丁目1-1	札幌市	S45.6.17	明治11年(1878年)に竣工した木造二階建ての北海道における初期米国風木造建築で、当時農学校教頭であったホイラー教授の設計指導になる。明治39年に現在地に移築、昭和42年に復原されている。一般に札幌時計台の名で親しまれている北海道の開拓使時代の代表的建築である。
北海道大学農学部植物園・博物館	札幌市中央区北3条西8丁目 北海道大学植物園	国立大学法人 北海道大学	H1.5.19	1882年(明治15年)から1924年(大正13年)にかけて建てられたもので、特に博物館本館は開拓使札幌博物館として米国人建築士ペートマンの設計によるものである。
旧開拓使工業局庁舎	札幌市厚別区厚別町小野幌 北海道開拓の村	北海道	H25.8.7	明治初期の北海道開拓を主導した開拓使工業局の庁舎として、明治10年に札幌市街中心部に建設され、昭和54年に北海道開拓の村に創建時の姿で移築された。工業局宮籍課は、米国から輸入した建築雛形書を参照しながら、洋風建築を習得していった。この建物では通り抜けの玄関ホール兼階段室をもつ平面構成や、屋根の棟飾り、ポーチの破風飾り、軒下の持送りなどに、米国建築書を参照したことが確認される。旧開拓使工業局庁舎は、明治初期の北海道開拓を支えた同局工作場の現存唯一の遺構であるとともに、工業局宮籍課の設計業務の実態を示す建物として歴史的に高い価値が認められる。
カラフトナヨロ惣乙名文書(ヤエンコロアイヌ文書)	札幌市北区北8条西5丁目 北海道大学附属図書館	国立大学法人 北海道大学	R1.7.23	カラフト(現在のサハリン)南部西岸のナヨロにてアイヌの氏族長をつとめた家に伝来した満文2、漢文2、和文9通の古文書。三姓副都統衙門発給の満文案は清国の北方諸民族支配の実態を伝え注目されるなど、18~19世紀のカラフトをめぐる日清両国の影響を考察する上で重要。
旧札幌控訴院庁舎	札幌市中央区大通西13丁目4-194 札幌市資料館	札幌市	R2.12.23	札幌市街の中心部、大通公園の西端に面し、現在は札幌市資料館として公開されている。大正15年の建設で、札幌の近代を代表する建材である札幌軟石の建物として現存最大級で、多彩な石加工技術を見ることができる。意匠は、ルネサンス様式を基調とするが、セセッションなどの近代芸術運動の影響も見られる。壁体を石と煉瓦の組積造(せせぎょう)とする一方、二階床は鉄筋コンクリート造とし、新旧の構造技術を織り交ぜる。旧札幌控訴院庁舎は、司法省の盛期の設計を伝えるとともに、意匠と構造の両面で建築の近代化が進化した時代を具体的に示しており、高い価値を有している。
土面(北海道千歳市真々地町ママチ遺跡第三一〇号土壌墓出土)	江別市西野幌685-1 北海道埋蔵文化財センター	国	S63.6.6	ママチ遺跡は、千歳市街の南西約一キロに位置する。土面は、この土壌群のうちAP三〇号土壌墓の塚口北西端に、顔面を仰向けた状態で出土した。素焼き土製、頭部右側及び右耳の一部を欠損するが顔面の主要部分は完存する、大形の土面である。
北海道江別太遺跡出土品	江別市緑町西1丁目38 江別市郷土資料館	江別市	H5.6.10	江別太遺跡は石狩川との合流点から三キロ上流の現千歳川河岸に位置する。出土品は、縄文時代中ごろ(本州では弥生時代終末にあたる)に属する江別式の深鉢形土器五箇、玉類六箇、石器類二十七箇、木器・木製品類二十箇、および鹿角簪【ろつかくかんざし】一箇から構成される。
北海道元江別1遺跡土壌墓出土品	江別市緑町西1丁目38 江別市郷土資料館	国	H7.6.15	元江別1遺跡から出土した縄文時代中頃の、土壌墓出土資料一括である。深鉢形・壺形等の土器類72個、琥珀玉を主とした玉類3,669箇、石鏃・石製銃頭・磨製石斧・搔器等の石器類308箇で構成される。

名 称	所在地	所有者	指定年月日	摘 要
箱館奉行所文書	江別市文京台東町 41-1 北海道立文書館	北海道	H16.6.8	2度目の幕府直轄に伴い、箱館奉行を設置した時期の文書・記録。主として、箱館奉行所及び出先機関であるモンベツ御用所・運上役所の文書など。
北海道美々8遺跡出土品	江別市西野幌 685-1 北海道埋蔵文化財センター	北海道	H17.6.9	出土品は、美々8遺跡から出土した資料一括である。 資料は、土器・陶磁器・土製品 64 点、木製品 858 点、漆器 38 点、繊維製品 17 点、石製品 56 点、ガラス玉5点、骨角製品7点、金属製品 119 点で構成され、その材質、種類はきわめて豊富である。
開拓使文書	江別市文京台東町 41-1 北海道立文書館	北海道	H26. 8.21	開拓使札幌本庁・東京出張所・各支庁及びその前身の箱館府等において、作成、収受、編綴された近代行政文書である。後継機関である北海道庁に伝来した一群で 7,832 点を数える。明治政府による北海道の近代化の諸政策を知る上での基本資料であり、同地域における地域社会の形成過程やアイヌに対する諸政策を具体的に伝えて、近代史、北海道史及びアイヌ史研究上に重要である。
動物形土製品(北海道千歳市美々第四遺跡出土)	千歳市長都 42-1 千歳市埋蔵文化財センター	千歳市	S54.6.6	札幌、苫小牧の中央を流れる美々川の支流、美沢川沿いにある美々第四遺跡から出土した。土製品の側面観は、鳥の形状も想起されるが、いま特定の動物に比定することは困難である。特異な形状を伝える出土品で、縄文時代後期・晩期の祭祀、呪術的な精神生活をみるうえで貴重な遺品である。
北海道カリンバ遺跡墓坑出土品	恵庭市南島松 157-2 恵庭市郷土資料館 恵庭市牧場 219 恵庭市埋蔵文化財整理室	恵庭市	H18.6.9	出土品は北海道カリンバ遺跡の墓坑から出土した副葬品の一括である。本件はカリンバ遺跡出土品のうち、本遺跡を特徴づける縄文時代後期から晩期の三墓の墓坑(第 118 号、第 119 号、第 123 号)から出土した副葬品の一括である。これら副葬品を代表するものは櫛、腕輪、耳飾り、腰飾り、額飾り、頭飾りなどの漆を用いた装飾品である。これら装飾品は人骨は存在しないものの死者の装飾部位を特定することが推測できる第一級の資料である。
北海道西島松5遺跡出土品	恵庭市南島松 157-2 恵庭市郷土資料館 恵庭市牧場 219 恵庭市埋蔵文化財整理室	恵庭市	R6.8.27	西島松5遺跡は、河川改修と遊水地建設工事に伴い平成 12 年から 17 年まで発掘調査が行われ、縄文時代の漆製品や擦文文化期の金属製品など約 167 万点に及ぶ貴重な文化財が出土した。その内、刀をはじめとする金属製品 155 点、土器 62 点、琥珀玉1点等が北海道西島松5遺跡出土品として令和6年に重要文化財に指定された。

(2) 重要有形民俗文化財

名 称	所在地	所有者	指定年月日	摘 要
アイヌのまるきぶね(河沼用)	札幌市中央区北3条西8丁目 北海道大学植物園	国立大学法人 北海道大学	S32.6.3	ヤチダモの一本をくりぬいて製作されたものである。河沼用の漁及び交通運搬などに使用されたもので、アイヌの生活習俗を知る上で重要である。また、丸木舟の典型的な製作技法を伝えており、我が国の船の変遷を考える上でも重要なものである。

(3) 重要無形民俗文化財

名 称	所在地	所有者	指定年月日	摘 要
アイヌ古式舞踊	札幌市白石区本通 20 丁目南1-56 札幌市生活館	札幌ウポポ 保存会	S59.1.21 H6.12.21(保 護団体指定)	アイヌの人々に伝承されている芸能で、祭祀の祝宴や様々な行事に際して踊られる。アイヌ独自の信仰に根ざしている歌舞で、その様式にはきわめて古態をとどめているものが多い。とくに、信仰と芸能と生活が密接不離に結びついているところに特色があり、芸能史的な価値が高い。
	千歳市蘭越 蘭越生活館	千歳アイヌ文 化伝承保存会	H6.12.21 (保護団体の 構成団体に 指定)	

(4) 史跡名勝天然記念物（史跡）

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
開拓使札幌本庁本庁舎跡および旧北海道庁本庁舎	札幌市中央区北2・3条西5・6丁目	北海道	S42.12.15	1873年(明治6年)10月に建築された開拓使札幌本庁の本庁舎は南北30.3m(100尺)東西18.8m(60尺)の木造2階建て、屋上に径9m(30尺)の八角塔を設けたもので、1879年(明治12年)に消失、北海道本庁舎は、その隣接地に1888年(明治21年)12月に建てられ、1968年(昭和43年)修復した。
琴似屯田兵村兵屋跡	札幌市西区琴似2条5丁目	札幌市	S57.5.7	1874年(明治7年)、本州からの屯田兵が北海道へ入植する際に居住できるよう建設された、木造の建築物を復元したもの。道路など周辺の土地と共に残されたものであり、琴似に入植した屯田兵の兵村と住んでいた兵屋を理解する上で、重要な遺跡である。
江別古墳群	江別市元江別858-4ほか	江別市ほか	H10.9.11	8世紀後半から9世紀中頃に形成された径3~10m、高さ0.3~1m程度の墳墓群で、その出土品は東北地方北部の群集墳との強い関係性を示す。本遺跡は、北海道ではここのみ残る古墳群であり、この種の群集墳の北限を示す唯一の現存する遺跡として貴重であるとともに、北海道地域と律令支配の及んだ地域との交流を考える上で重要な遺跡である。
ウサクマイ遺跡群	千歳市蘭越	千歳市ほか	S54.5.23	千歳川と内別川にはさまれた台地上に所在する縄文時代早期から晩期、続縄文時代、擦文時代に至る各時代に属する集落跡及び墳墓群である。
キウス周堤墓群	千歳市中央410-2ほか	千歳市ほか	S54.10.23	縄文時代後期後葉(約3,200年前)のもので、2021年(令和3年)「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産に登録された。円形の土塁(周堤)により墓域を区画した共同墓地。全部で9基あり、土塁の外形は19mから最大83mである。現在でも埋まりきることなく、その姿を見ることができる。
カリンバ遺跡	恵庭市黄金中央5丁目216-6ほか	恵庭市	H17.3.2	北海道を代表する縄文時代後期後半から晩期初頭の大規模な墓地であり、豊富な副葬品を持つ土坑墓群や数多くの合葬墓は縄文時代の埋葬習俗、装身文化、漆工文化を知る上で極めて重要である。
旧島松駅通所	北広島市島松1	北広島市	S59.7.25	本道の開拓功労者中山久蔵氏の建てた駅通の建物があり、明治天皇在所が残されている。寒地稲作発祥の地である。
荘内藩ハマシケ陣屋跡	石狩市浜益区川下	石狩市ほか	S63.5.17	安政6年(1859年)江戸幕府から蝦夷地警備を命ぜられた庄内藩(鶴岡藩)の陣屋跡であり、日本海近くの浜益川北岸丘陵南斜面に所在し、幕末における国際情勢をうかがう遺跡として歴史的・学術的に高い価値を有している。

(5) 史跡名勝天然記念物（名勝）

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
ピッカノカ黄金山 (ピンネタイオルシベ)	石狩市浜益区実田	国	H21.7.23	アイヌのユカラに謡われた物語・伝承の舞台をはじめ、カムイ(神)に対する祈りの場であるチノシリ(チノシ)の伝承地、アイヌ語により命名された独特の地形から成る土地は、いずれも良好な自然の風致景観を成し、アイヌ語で「ピッカノカ」(美しい・形)と総称するに相応しい景勝地群である。

(6) 史跡名勝天然記念物（特別天然記念物）

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
野幌原始林	北広島市西の里	国	S27.3.29	トドマツの最も多い森林として有名であったが、台風等により地域が縮小した。

(7) 史跡名勝天然記念物（天然記念物）

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
円山原始林	札幌市中央区円山	国	T10.3.3	海拔226mの山で390種の植物分布が見られる。
藻岩原始林	札幌市南区藻岩山	国	T10.3.3	414種の冷温帯の豊富な植物分布がある。海拔531m。